

〔事例報告〕

工学部 文章表現基礎講座における学習教材について

坂井 美穂*, 渕上千香子*², 東寺 祐亮*²

日本文理大学工学部情報メディア学科*

日本文理大学工学部*²

The Developments of the Effective Self-learning Support Materials for Basic Course of Sentence Expression at the School of Engineering

Miho SAKAI*, Chikako FUCHIGAMI*², Yusuke TOJI*²

*Department of Media Technologies, School of Engineering, Nippon Bunri University

*²School of Engineering, Nippon Bunri University

1. はじめに

日本文理大学における文章表現基礎講座は、1年後期に配置されている必修科目であり、コミュニケーション科目の1つである。配置学年や学期の目標として、「知識とスキルを活用できる基礎を身につけること」および「多様なコミュニケーションの技法を身につけること」と学生便覧の教養基礎科目連携表¹⁾に記載されている。

今回、日本リメディア教育学会 第14回九州・沖縄支部大会で発表した内容²⁾に加筆し、工学部学生特性を考慮した日本語ライティング教育に使用した意見文のテーマおよび講義に使用してきた学習教材の1つである講義ワークを中心に事例報告を行う。

2. 工学部における文章表現基礎講座の変遷

2-1 2015年度までの学習内容および問題点

2015年度までの文章表現基礎講座では、基礎学力講座（国語）科目を踏襲し、語彙力に特化した内容が中心であった。学科ごとの複数クラスがあり、共通シラバス、共通教材を使用した指導であり、この間、使用していた教材は、東京書籍版の「ステップアップ日本語講座中級」

や「スキルアップ!日本語力」を使用していた。共通シラバスであったため、学習到達目標等は同一であったものの、複数クラスによる問題点として、指導教員の指導手法による差がでること、および、語彙力強化中心といった講義内容から、文章を作成するスキルを身につけさせにくいといったことがあげられた。

2-2 2016年度以降の学習方略の変遷

文章を作成するうえで、語彙力を強化することは重要な課題である。一方で、語彙力に特化した講義を行っても、高校までに十分な文章作成に関する学習を受けていなかった場合や、文章作成に対し苦手意識をもつ学生の場合、レポート作成等に困難を生じる事例が多く散見された。そこで、まず、文章作成技術を身につける講義内容に転換を図った。

学科ごとの複数クラス、かつ、複数教員による指導ではあるものの、指導方法、シラバス、評価方法、教材をすべて統一するところから開始した。これまでの変遷を表1に示した。

必修講義であることより、毎回250名前後の学生のレポートを読む必要があること等から、紙での資料配布や手書きによる課題採点を廃止し、ICTツール（学習支援システムであるユニバーサルパスポートや

MS-Office) を活用に変更し、資料配布や採点等を変更した。

表1 2016年度以降の指導内容等の変遷

年度	指導内容等
2016	手書きから MS-Word(アウトライン作成)を使用した学習および同一試験を導入 ルーブリック評価の導入
2017	ユニット・ステップ学習(テーマ設定による段階的文章表現手法)の導入 個別評価表および個別評価表による学習サポート導入 文章の型(PREP 型・序破結型)の学習導入
2018	オリジナルの教科書作成 国語専任教員着任により、チームティーチング制導入 学習サポートの充実化 ワークシートを MS-Word から MS-Excel へ変更 GoogleForm によるアンケート課題を導入、資料読み取りに活用
2019	GoogleForm による課題提出を導入
2020	Googleclassroom 活用による遠隔・自律学習サポート導入 事前ワークの導入
2021	Moodle 活用による自律学習サポート導入

さらに、語彙力強化学習内容から文章作成技術を身につける学習へ転換し、ユニット・ステップ学習やチームティーチング等を取り入れた自律的学習方略を行った。

項目 2② タレント 2 人 (マツコと有吉) は、どのような理由でノート代わりの写真撮影を「アリ」だとしていますか。
箇条書きにまとめてみましょう。必須

項目 2③ Twitter ではノート代わりの写真撮影についてどのような意見が出ていますか。箇条書きにまとめてみましょう。必須

項目 2④ 8 行目の有吉の発言「先生が嫌じゃなや、いいですよね」に関して、どのような配慮があれば先生はノート代わりの写真撮影を「嫌」でなくなるでしょうか。あなたの考えを文章中の語句を使って **60 字以上 100 字以下**でまとめてみましょう。必須

項目 2⑤ 講義中にスマートフォンを利用して板書などの写真を撮ることについて、あなたは賛成ですか、反対ですか。あなたの意見を **70 字以上 100 字以下**で書きましょう。必須

項目 3 資料 3 (1) と (2) の図表は 2018 年 2 月に発表された NTT ドコモが全国の 12 歳～18 歳の子どもへ 1,204 人に聞いたスマートフォンと勉強に関するアンケート結果です。
資料 3 を読み取り、項目 3 ①～⑤に答えましょう。

資料 3 (1) 質問「スマートフォンは勉強に有効だと思いますか？」への回答結果 (n=1204)

スマートフォンは勉強に有効だと思うか (割合)

図1 MS-Word を使用した学習教材 (講義ワーク A)

また、文章作成のために使用していたワークを2018年度から MS-Word (図1) から MS-Excel (図2) に変更

した。

↓ 9桁の学籍番号を入力して下さい(指定通り入力しないとデータ表示がありません)*課題提出者のみ表示

学籍番号 [] ← 学籍番号を入力してください。未入力の場合評価対象外

氏名 [] ← 学籍番号を入力すると自動で氏名が入力されます。

テーマ3では「高校までの学校教育における社会貢献活動の義務化はあつたか」というテーマで意見文を作成します。
今回は資料の読み取りおよび意見文の作成です。締め切り日の指定時間までに提出
最終的には720字以上800字以下で序破結型意見文を作成させます。

テーマ3は 6 回で意見文の完成を目指します。
締め切り; 締め切り日はクラスルームで確認すること

文章作成の際に注意すべき例 → テキスト 17 ページ「10. 記述の際のポイント」参照

設問を読み、各項目を完成しましょう。
(段階)
資料 1、2 を読み、各設問に回答し、意見文を作成しましょう。なお、意見文を書く際には、資料の内容および体験をもとにテーマに則した意見文を作成してください。必ず「賛成」「反対」のどちらかの立場で意見文を作成してください。

今回の事前ワーク →

資料 1 は、文部科学省の 2. 初等中等教育段階の青少年の学校内外における奉仕活動・体験活動の推進に関する記述より一部抜粋したものである。資料 1 を読み、各項目に答えましょう。

項目 ① 高校までの青少年の時期に奉仕活動や体験活動を行う理由を文中から抜粋しましょう

項目 ② 小学生時代に奉仕活動を行う意義を文中から抜粋しましょう

前回のワーク内容

項目 ① あなたの立場を明確にしましょう

項目 ② あなたが高校までに体験した社会奉仕活動について記載してください。(いつ、どのような活動かを詳しく) 社会奉仕活動の体験がない場合「体験なし」と記入

項目 ③ 調査したすべての資料の URL や書籍の作者名、タイトルを記入しましょう。(必ず明記すること)

項目 ④ 完成意見文

文字数

一文の長さ確認

文字数

* 項目 ⑧ あなたの立場が「社会奉仕活動の義務化に賛成である」と仮定した場合、「賛成者の立場」で項目 ①～⑦およびあなたの体験をもとに250字以上300字以下で意見文を作成しましょう

講義中に詳しいGoogleフォームへ転記

文字数

(a) 学籍番号を入力すると事前ワークおよび前回ワークを提出した学生はワークの内容が表示される

* 項目 ⑦
どのような活動であればボランティア活動への関心が高まるか(大いに思う)と回答した人は言っているか、150字以上200字以下で要約しましょう
講義中に詳しいGoogleフォームへ転記 (事前ワーク未提出者および推測した人は入力してください)

文字数

(b) 文字数のカウントを自動カウントへ

図2 MS-Excel を使用した学習教材 (講義ワーク B)

MS-Word (図1) を使用した学習教材 (講義ワーク A) では、作成のしやすさはあるものの、文字数のカウントやその後の評価をエクセルで行う等、学習者および評価者の両方に使いにくさが挙げられた。

そこで、文字数のカウントや、前回ワークの内容や事前ワークの内容を反映しやすいように MS-Excel を活用した学習教材 (講義ワーク B) へ変更を行った。

講義ワーク B (図2) に変更した結果、事前ワークや前回までの講義ワークの内容を、学籍番号の入力をする、学生は内容を確認することができるようになった。

さらに、別紙や、Google Classroom ルーブリック評価を利用して通知していた個人評価表もあわせて転記する仕様に変更した。

3. 日本語ライティング教育効果を上げる工夫

3-1 テーマ選択

対象とする工学部では、ICT ツールを活用し、与えられたテーマに沿って、図表データの内容および自己体験を入れ、論理的な意見文を規定時間内に、規定文字数で書く能力を養うことを目的とし、自律的学習を促す仕組みを導入し、その実践については報告を行っている^{3),4)}。

一方で、文章作成における苦手意識をもつ学生も多く、テーマにも工夫が必要である²⁾。

工学部における文章表現基礎講座では、文章作成技術を身につけるさせるため、意見文の型を PREP 型と序破結型の2つに絞り、テーマに即した意見文作成指導 (日本語ライティング教育) を行っている。

文章作成指導に転換した2016年度には「女性の社会進出」や「生物多様性」といったテーマを選択していた。しかしながら、意見文作成の際、自己体験を反映しやすいテーマではないと考えられた。

そこで、学生のこれまでの体験を意見文に反映させやすいテーマを考慮した。2018年度より、「自分事化」して意見文を作成するよう指導を行ってきた。

2019年度から2021年度までのテーマを表2に示す。

表2 自分事化を考慮した意見文のテーマ²⁾

年度	No.	意見文テーマ
2019	1	3Dプリンタの低価格化による家庭への普及に賛成か反対か
	2	一般教養を身に付けるために行う読書は必要か不必要か
	3	小学低学年からの英語教育の義務化に賛成か反対か
2020	1	ポテサラ論争に見るファストフード利用はありかなしか
	2	オンライン授業はありかなしか
	3	高校までの学校教育現場での社会奉仕活動の義務化はありかなしか
2021	1	ネットリテラシー教育は必要か不必要か
	2	プラスチックごみの分別やSDGsを意識することで行動変容はあるかないか

*日本リメディアル教育学会、第14回九州・沖縄支部大会 発表予稿集²⁾より抜粋

表2の意見文テーマの中で特徴的な2020年度テーマについて、学生アンケート結果を図3に示す。

本調査は第15回の講義終了後、テーマに関する興味関心および書きやすいテーマについて回答してもらった結果をグラフ化したものである。全履修者のうち、回答に協力し、回答公表に同意した162名のデータを使用した。

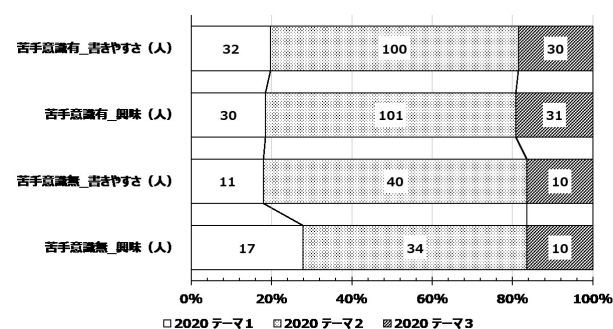


図3 2020年度調査結果 (N=162)

図3より、2020年度の「オンライン授業はありかなしか」というテーマでは、コロナ禍で学生がオンライン授業を経験している世代であったため、苦手意識があっても書きやすく、興味があると評価した学生の割合が高い。このことから文章作成指導におけるテーマには自己体験を反映させやすいテーマを選択すると、文章作成に対し、苦手意識がある学生も興味をもち、学習に取り

組むことができ、日本語ライティング教育の効果が上がると考えている。

3-2 講義ワークBの改良

自分事化しやすいテーマを選定し、資料データおよび自己体験を入れて意見文を完成するよう講義ワークB(図4)を用い、指導を行っていた。

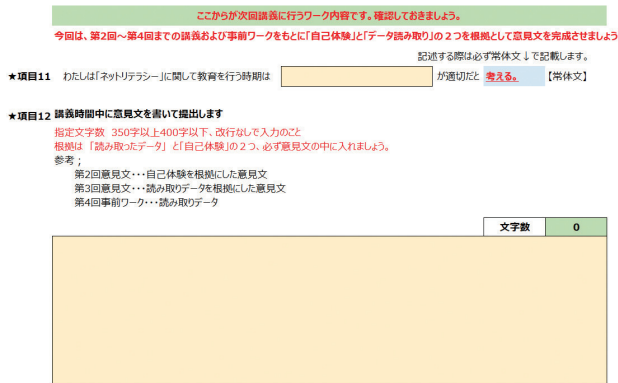


図4 2021年度までの講義ワークB

図4の講義ワークBでは指示文に「指定文字数350字以上400字以下、改行なしで入力のこと。根拠は「読み取ったデータ」と「自己体験の2つ、必ず意見文の中に入れましょう。」と朱書きで自己体験を入れることを明記していた。

しかしながら、「自己体験」を意見文中に「自分事化」して入れることができずに、感想文やエッセイ文になる学生や、自己体験を入れることができない学生が多く見られた。このことから、指示文だけでは、自己体験を自分事化して文章に反映されない講義ワークB(図4)になっていることが示唆された。

そこで、自己体験を「自分事化」して意見文に反映するような講義ワークが必要であると考え、2022年度後期の講義から、自己体験(5W1H)を入れるワークへ改良を行った。

2022年度後期で使用したテーマ1は「大学生に読書習慣は必要か不必要か」である。このテーマで資料中の図表の読み取りおよび自己体験を事前ワークで回答できるように設定したワークを作成した(図5)。

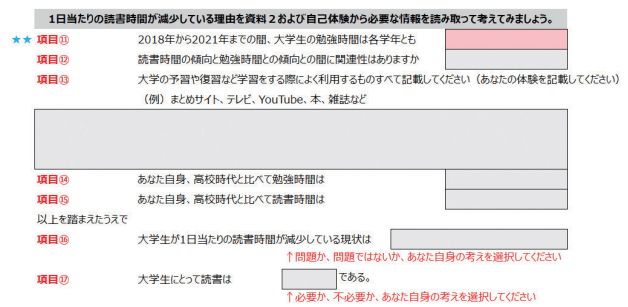


図5 事前ワーク改良事例

図表データと自己体験がリンクしやすいように選択肢で選ぶようにし、事前ワークから具体的に記入できるように改良を行った(図5)。

つぎに、講義ワーク内で自己体験、図表データと意見文に入れる事例を箇条書きで書く欄を設けた(図6)。

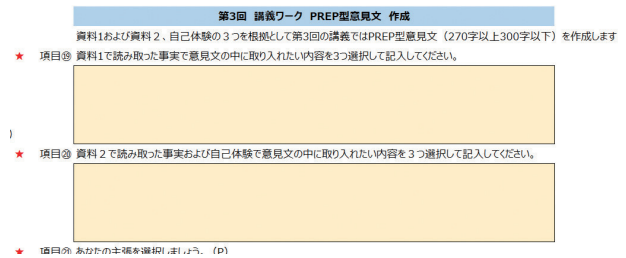


図6 講義ワーク改良事例1
上段が図表読み取り内容記入欄、下段が自己体験記入欄

図6より、事前ワークで記入した内容に加え、講義ワークでも再度、反映させたい自己体験内容を記入する欄を設け、自己体験を意見文に入れるように意識づけを行った。

さらに、テーマ1で学習するPREP型意見文を、直感的にも作成しやすいように、ワークの改良を行った(図7)。



図7 講義ワーク改良事例2

「どこに何を書けばいいのか」、「文字数はどの程度を目安に書けばいいのか」など、文章を作成しながら、学生が自律的に考えられるようになることを考慮した講義ワークを作成した(図7)。

今後、今回の改良事例により、学生が作成した意見文について教員評価や学生アンケート結果、およびテキストマイニング等で分析を行う予定をしている。

4. おわりに

この講義は基礎レベルである。文章作成能力(文才)ではなく、文章作成技術としてスキルを身につけ、書き手の考えを正確に読み手に伝えることができることも工学部学生にとっては重要なスキルのひとつであると考えている。さらに、文章作成に対し、苦手意識をもつ学生が50%を超える本学学生²⁾にとって、テーマへの興味の有無も重要である。

スキルとして文章を作成ができるようになるためには、文章の型をしっかりと覚えられるような講義ワークが必要であり、工学部学生の特性を考慮し、自己体験を入れやすいテーマの選定や直感的に書くことができる自律学習可能な支援ができる講義ワークが必要である。

これまでの学生指導をもとに、必要だと考えられる講義ワークの改良を行った。

今後、学生の作成した意見文や学生アンケート調査をもとに、工学部学生の特性を考慮した今回の講義ワークの評価を行い、さらなる改良を重ねていく予定である。

謝辞

文章表現基礎講座の講義内容に関し、助言をいただきました建築学科 吉村充功教授、指導に際し助言をいただきました情報メディア学科 赤星哲也教授、建築学科 濱永康仁准教授、昨年度まで講義指導に携わっていただいたすべての先生ならびにSAの皆さんに感謝いたします。なお、本事例報告はR4年学長裁量教育研究の助成を受けたものです。

参考文献

- (1) 令和3年度学生便覧, 教養基礎科目連携表(2021年度入学生以降適用), p52
- (2) 坂井美穂, 瀧上千香子, 東寺祐亮. (2022). 文章表現基礎講座における自己体験を意見文に反映させるための事例報告, 日本リメディアル教育学会, 第14回九州・沖縄支部大会 発表予稿集, 9-10.
- (3) 瀧上千香子, 東寺祐亮, 赤星哲也, 太田清子, 安田幸夫, 吉村充功, 坂井美穂. (2020). 日本語ライティング科目における学習者の自律的学習の促進. 日本文理大学紀要, 48 (2), 55-59.
- (4) 瀧上千香子, 坂井美穂, 東寺祐亮, 吉村充功. (2022). 自律的学習を促す日本語ライティング教育の実践. 日本リメディアル教育第17回全国大会 発表予稿集, 82-83.

(2022年12月21日受理)

